

3 研究実施体制

【概要】

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。そして、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議が行われ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての実質性を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員（長期）の採用と研究プロジェクトへの配置なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 小倉 慈司

【客員教員】

氏名	委嘱職名（本務校）	担当プロジェクト	期 間
春日 聡	客員准教授（多摩美術大学・非常勤講師）	基盤研究「歴博研究映像の総合的活用の方法論の構築—沖縄地域の映像を中心に—」	2022.4.1 ～2023.3.31
家永 遵嗣	客員教授（学習院大学文学部・教授）	基盤研究「『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究」	2020.4.1 ～2023.3.31
土居 浩	客員教授（ものづくり大学建設学科・教授）	基盤研究「家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会」	2020.4.1 ～2023.3.31
島立 理子	客員教授（千葉県立中央博物館・企画調整課長）	基盤研究「定期市からみた地域の生活文化の歴史と多様性に関する研究」	2020.4.1 ～2023.3.31
下田 誠	客員准教授（東京学芸大学次世代教育研究センター・准教授）	基盤研究「秦漢時期の文字使用をめぐる学際的研究」	2021.4.1～ ～2023.3.1
村上 忠喜	客員教授（京都産業大学文化学部京都文化学科・教授）	基盤研究「映像による民俗誌の叙述に関する総合的研究—制作とアーカイブスの実践的方法論の検討」	2021.4.1 ～2023.3.31
下村周太郎	客員准教授（早稲田大学文学部・准教授）	基盤研究「高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条里図と栄山寺寺領文書を中心に—」	2021.4.1 ～2023.3.31
鈴木 琢也	客員准教授（北海道博物館・学芸主幹）	基幹研究「交流・環境からみたオホーツク文化・擦文文化、アイヌ文化—その成立・展開過程—」	2022.4.1 ～2023.3.31
佐々木憲一	客員教授（明治大学文学部・教授）	基幹研究「東アジアからみた関東古墳時代開始の歴史像」	2022.4.1 ～2023.3.31
田中 祐介	客員准教授（明治学院大学・専任講師）	基盤研究「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」	2022.4.1 ～2023.3.31
山田 康弘	客員教授（東京都立大学大学院人文科学研究科・教授）	① 総合展示第1室「先史・古代」におけるWiFi活用についての検討並びにデジタルコンテンツ制作 ② 博物館資料調査プロジェクト（縄文文化関連の考古資料）	2022.4.1 ～2023.3.31

【外来研究員】

氏 名	研 究 課 題	期 間
神野 由紀	近代消費社会と趣味の大衆化に関する研究	2021.4.1 ～2023.3.31
是澤 紀子	寺社建築の記録と再生に関する研究	2022.4.1 ～2023.3.31

[プロジェクト研究員]

氏 名	研 究 課 題	期 間
賀 申杰	総合展示新構築プロジェクト（第5展示室「近代」・第6展示室「現代」）	2020.4.1 ～2024.3.31
土山 祐之	総合展示新構築プロジェクト（第2展示室「中世」）	2022.4.1 ～2023.3.31

[科研費支援研究員]

氏 名	研 究 課 題	期 間
石井 匠	心・身体・社会をつなぐアート／技術	2019.8.1 ～2024.3.31
井上 正望	格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築	2020.10.1 ～2023.3.31
上 奈穂美	過去3万年の極端気候・極端災害史の精密編年に向けた新しい年輪年代法の基盤研究 過去1万年間の太陽活動	2022.4.1 ～2025.3.31

[リサーチアシスタント]

氏 名	所 属	研究プロジェクト	期 間
古田 一史	小倉 慈司	延喜式のデジタル技術による汎用化	2022.5.1 ～2023.3.31
秦 文憲	青木 隆浩	日本植物文化史の分野横断的な検証と展示手法の再構築	2022.4.1 ～2023.3.31
森田 大介	家永 遵嗣 (田中 大喜)	『広橋家旧蔵記録文書典籍類』を素材とする中世公家の家蔵史料群に関する研究	2022.4.1 ～2023.3.31
中島 皓輝	下村周太郎 (仁藤 敦史)	高度情報化による古代中世の寺院および荘園の総合的研究—額田寺伽藍並条理図と栄山寺寺領文書を中心に—	2022.4.1 ～2023.3.31
小風 綾乃	後藤 真	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究	2022.4.1 ～2023.3.31
谷山 昌子	土居 浩 (山田 慎也)	家内における死者祭祀・祭具の現在とその歴史的検討：変容するモノ・家族・社会	2022.4.1 ～2023.3.31
王 羽萌	田中 祐介 (三上 喜孝)	近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究	2022.4.1 ～2023.3.31
金久保拓未	田中 大喜	中世日本の地域社会における都市の存立と機能の研究	2022.8.1 ～2023.3.31
伊藤 静香	川村 清志	フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発	2023.1.1 ～2023.3.31

[研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 小倉 慈司

[主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
蛍光X線分析装置		日立ハイテクサイエンス	EA1400	2022年度	・元素分析（軽元素の測定可）
表面分離型質量分析計		Thermo Fisher Scientific	TRITON XT	2022年度	・ストロンチウム・ネオジウムなどの同位体分析
ICP質量分析装置		パーキンエルマー	NexION2000	2020年度	・同位体比測定のために抽出した鉛、ストロンチウムなどの回収量分析 ・微量元素分析
微小試料採取設備		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料、剥離漆の採取
マルチコレクタICP質量分析計（MC-ICP-MS）		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定（青銅製品などの産地推定等） ・ストロンチウム同位体比の測定（人骨による生育地推定等）
X線分析顕微鏡		HORIBA（堀場）	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析（錦絵色材等） ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子顕微鏡（SEM-EDX）		JEOL（日本電子）	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察（種実同定、種実圧痕、金属製品等） ・微小部の元素分析
色相・有機質分析システム		Megavision	EV multispectral imaging system	2013年度	・文化財のマルチバンド測定（13 bands）
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視光分光測色
赤外線カメラシステム					
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
	カメラコントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料、館外所在資料の極部元素分析
高温用赤外線サーモグラフィー		JENOPTIK	VarioTHERM basic	2006年度	・炎の逐次温度測定（鍛冶技術の数値的分析） ・高温時の加工品の温度測定
AMS-14C法支援機器					
内 訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・炭素14年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析試料の調製 ・酸素安定同位体分析試料の調製 ・炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	
		光信理化学製作所	K-RS-EL	2005年度	
		光信理化学製作所	KS-MK-5	2000年度	
	元素分析計	Thermo	Flash EA 1112	2005年度	
高精細デジタル顕微鏡		キーエンス	VHX-500	2005年度	・微小部の観察（金属製品等）

〔図 書〕

本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を収集し、利用に供して、館内外の研究者の調査活動の支援を行っている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認した上で、必要な図書等を選定し、各施設の整備等を進めて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

（1）2022年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。

〔図書〕

- ・日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。
- ・共同研究、展示、資料にかかわる基本図書を収集する。
- ・自治体史（都道府県史・市町村史）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のもの）は、蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める。

〔雑誌〕

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌購入は必要最小限とし、電子媒体及び図書館相互協力の有効活用を図る。

（2）2022年度の活動概要

1）図書購入申込み方法の統一化

新型コロナウイルス感染防止対策と、デジタル（マイライブラリ）の活用による事務作業省力化のため、図書購入申込みをマイライブラリからのみとし、紙媒体による申し込みを試行的に廃止した。

2）第2書庫2階への温湿度モニターの設置と配架計画（案）の作成

昨年度に移動集密書架の設置が終了した第2書庫2階に、庫内の環境を測定するための温湿度モニターを設置した。また、第1書庫和雑誌書架と第2書庫2階移動集密書架の棚の計測を行うとともに、第2書庫2階の雑誌配架計画（案）を作成した。

3）入館者用図書室の再開

新型コロナウイルス感染防止対策として2020年度から閉室していた入館者用図書室を、2022年7月20日から再開室した。再開室に際し、新型コロナウイルス感染防止対策を講じるとともに、今まで無制限となっていた研究用図書室からの出納図書の冊数を、1人につき1日10冊までに制限することとした。

4）購読雑誌等の選定

昨年度に館内の教員を対象にして行った和雑誌購読希望アンケートをもとに、和雑誌の選定を行った。しかし、図書購入費に占める購入金額の割合が低く、また、購読希望も多かったため、現在購読している和雑誌は、引き続き契約を継続することとした。一方、今年度から契約の電子ジャーナルプラットフォーム「Project MUSE」と、データベース「Oxford English Dictionary」については、利用件数が少なく契約金額が高額であるため、次年度の契約は行わないこととした。

5）図書利用規程等の改正

「国立歴史民俗博物館図書規程」を改正し、研究用図書室での閲覧、書庫への立入、貸出、相互利用などのサービス内容と、サービスを受けられる対象者区分を明確にした。また、「国立歴史民俗博物館図書規程」の改正に伴い、「国立歴史民俗博物館における『国立国会図書館デジタル化資料送信サービス』の利用に関する取扱要項」を改正し、「国立歴史民俗博物館元教職員および総合研究大学院大学日本歴史研究専攻出身者の研究用図書室利用に関する取扱要項」を廃止した。

2023年2月には、総合研究大学院大学の組織改編のため、「国立歴史民俗博物館図書規程」、「国立歴史民俗博物館図書相互貸借規程」、「研究用図書室の時間外利用に関する申し合わせ」の改正を行った。

(3) 今後の課題

1) 図書購入費について

配分予算の縮小や電子ジャーナル（外国雑誌）等の価格上昇、為替レートの変動などにより、新規図書購入に充てられる予算が年々減少している。予算を圧迫している電子ジャーナル（外国雑誌）等の選定方法、契約形態について、さらなる見直しが必要である。

2) 第2書庫2階への和雑誌の移動

2022年度は、第2書庫2階の環境測定と書架の計測を行った。2023年度は第1書庫の和雑誌の移動を開始する予定であるが、第2書庫の保存環境について引き続き観察し、適宜改善をはかる必要がある。

図書担当 齋藤 努

[図書受入冊数]

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	4,323	121	0	0	367,286